

学校だより

令和4年2月

石山

新宿区立戸山小学校

春遠からじ

校長 百合野 壽郎

2月に入り、まだまだ寒～い日が続きますが、正門の紅梅が満開を迎えています。寒いながらも、少しずつ春に近付いているのだと思うと、正門を通るたびに、気持ちも少しうきうきしてきます。いくつかある梅の花ことばに、「忍耐」という言葉があります。まん延防止等重点措置下、世の中が、様々な制約下で過ごすことが当たり前ようになってしまっていますが、子ども達は、感染防止対策にしっかりと取り組み、元気に学校生活を送っています。不便さはもう十分に皆が理解している中、不平不満や身勝手な行動をとるのではなく、今この状態の中で、何ができるか、何をするのかを考え、実践していくポジティブな思考が求められています。梅の花のように耐え忍び、できることに取り組んでいけば、やがては日常を取り戻した暖かい春が訪れ、満開の桜が咲く時がやってきます。その時を心より楽しみにしようではありませんか。

「コロナの話なんか聞き飽きたよ！」という人達のために。

昔、ある会社の社長さんが、社員全員に次のような話をしました。実はその会社は、事業に失敗してつぶれかけていました。

新しく社長になったその人は、細かい改善策を話すのではなく、社員に次の事を言いました。

それは、みんなで「学習」をしましょうということです。

何万人も従業員がいながら、つぶれかけ、やる気をなくしている社員に対し、話したことは実にシンプルです。

それは、

- ①一人一人が努力をしましょう。(人に頼るのではなく、まず自分自身が率先して取り組んでみましょう)
- ②規律を守りましょう。(これくらいなら、まあいいや。ではなく、決められたルールはきちんと守りましょう)
- ③創造性を育みましょう。(過去の成功や失敗にこだわるのではなく、常に新しいことに意識を向けましょう)
- ④共感能力を身に付けましょう。(一人で取り組むのではなく、相手の考えを認め、お互いに協力して取り組みましょう)

です。

その会社は、4つの事柄を徹底しながら、社員が一丸となって、会社を立て直し、今はグローバル企業として、存在しています。何か今の社会・学校の状態と似ている部分があるとは思いませんか？

コロナは一人一人に大きな変革を求めています。しかしながら新しいことだけで、全てが成り立っているわけではありません。昔から続いていて良いこともまだまだいっぱいあります。良いことは続け、変えることは変える、そういった柔軟な思考が大切なのです。

さあ皆さん、学びましょう！！

3年生に向けて

2年担任

年が明けて、コロナウイルス感染症の第6波の影響により、分散登校になりました。学習活動にも制限のある中ですが、子ども達は元気いっぱい過ごしています。スポーツフェスティバルや学習発表会に向けて学年全体で取り組んだ経験や、普段の学習や生活を通して、友達と協力すること、目標に向かって頑張ることの大切さに気付くことが出来たのではないかと思います。

2年生も残すところ、あと2か月。この1年間を振り返り、3年生に向けて心身ともに成長できるよう担任一同、指導してまいります。

子どもの心の成長のために

スクールカウンセラー

子どもにも辛いことや苦しいことは沢山あります。まだ人生経験は浅いですし、心も成長段階にあるので、どう気分転換をすればいいか、どう気持ちを切り替えればいいかがわからず、嫌な気持ちを引きずってしまうこともあるでしょう。

子どもは、沢山遊んでエネルギーをチャージしたり、好きなことに没頭して心を満たしたり、美味しいものを食べ良く寝などの生活リズムを整えたり、話を聞いてもらったりすることで、無意識に気持ちを整理させています。話を聞いてもらうために相談室を利用する子どももいます。

小学生くらいになると、保護者の皆さんに甘えたい気持ちがあっても恥づかしくて素直に気持ちを表せないことがあります。実際に行動で表現しなくとも

「いつでも甘えられ、頼れる存在がいる」と思えることは、子どもの心の支えや励みにもなっています。子どもが相談してきたときに、保護者の皆さんが「正しい答えを返さなければ」と構える必要はなく、まず子どもの話をじっくり聴くことです。悩みを共有し合って一緒に考えるつもりで、ご家庭の中でも子どもの話に耳を傾けることが、子どもの気持ちの整理になりますし、心の成長にも繋がっています。

相談室では、子ども達が安心して学校生活を送れるようカウンセラー2人体制で対応しておりますので、お気軽にご利用ください。